第2回講座

■日時／令和5年4月22日(土)10:00～15:30
■会場／益城町交流情報センターミナテラス視聴覚室(益城町木山236)
■参加／ 26名(うちアーカイブ視聴4名)

1部　熊本地震の現場から①

「避難所運営について」

講師：吉村静代氏
(益城だいすきプロジェクト・きままに代表理事/防災士)

【講座内容】

益城町で避難所運営に尽力され、復興においても女性リーダーとして活躍されている吉村さん。被災現場の厳しさと、先を見越したリーダーシップの重要性、「できるしこ」という支え合いの在り方についての話を伺い、受講生からは数多くの質問が寄せ得られた





2部　熊本地震の現場から①

「避難所運営訓練(HUG)」

１期 講師：竹内裕希子氏(熊本大学大学院先端科学研究部教授/NPO法人くまもと防災士会代表理事)
２期 講師：水野直樹氏(NPO法人ソナエトコ理事長/防災士/NPO法人くまもと防災士会理事)

【講座内容】

HUG(避難所運営をみんなで考えるためのカードゲーム)を行い、さまざまな課題を前にした時の判断の難しさを実体験。「避難所はこれほどまでに混乱するのか」と皆、大慌てしながらも制限時間ギリギリまで課題解決に取り組み、多くの気付きを得られた様子であった。



【参加者アンケートより】 ＊1期・2期より抜粋

一人ひとりが主役であり、得意を持ちよりできたしこ。とても印象に残りました。

熊本地震で被災した益城町を思い出しながら聞きました。

HUGを通して、避難者を受け入れないという選択肢があったり、避難所には避難者以外もいろんな人が来たり、自分も避難したことがあるのに気付かないことばかりでした。

HUGでは、地域の特性を生かしたなら、地元ではどのようにできるか？と考えることができました。近所のおばちゃんたちの顔が浮かんできました。

コミュニティーの大切さや運営時に問題点に気付く大切さを感じた。

地域の方と協力しての前準備・備えが必要で、その必要性を伝えるのが私たちの役目と感じた。

第3回講座

■日時／令和5年5月13日(土)10:00～12:30
■会場／益城町保健福祉センターはぴねす(益城町惣領1470)
■参加／ 26名(うちアーカイブ視聴2名)

1部　熊本地震の現場から②

「熊本学園大学避難所運営の経験・課題」

講師：黒木邦弘氏(熊本学園大学社会福祉学部教授)

【講座レポート】

熊本地震発災当時、熊本学園大学の障がい者受け入れの取り組みは、SNS・ニュースなどで多く取り上げられ、指定避難所でないにもかかわらず実際に困難を抱えた人たちが集う避難所となった。混乱の中で多様なケースに向き合ってきた取り組みについて、学生ボランティアの受け入れの難しさ、閉所時の困難、地域連携の重要性など、大変重要で貴重な話を伺うことができた。





1期はオンラインで実施

2部　熊本地震の現場から②

「熊本市男女共同参画センターはあもにいの取り組みと
男女共同参画の視点に立った防災について」

講師：田中美帆(熊本市男女共同参画センターはあもにい　企画事業課課長/防災士)

【講座レポート】

発災時に熊本市男女共同参画センターはあもにいが取り組んだ性被害防止の活動や、避難所の環境改善、支援者支援などを通して、多様な視点が防災・減災に必要であることを知った。さらにジェンダー視点での防災をテーマに自己理解を深めるワークシートを活用しながら、それぞれが自身の実践活動の内容について振り返る機会を得ることができた。



【参加者アンケートより】 ＊1期・2期より抜粋

防災減災、避難所運営のコアなメンバーの中に、さらに多くの女性が加わるべきだと改めて感じた。

災害時の多様なニーズに対応するにはハード、ソフトの両面いるなと感じた。

これって「わがままなのか？」とか思っていたことでも、我慢しなくていいとの話に助けられた部分があった。

リーダーとしての…じゃなく、まずは自分でできることをさせてもらうので良いのかなと思った。

女性の視点の大切さを本当に感じました。実践の発表だったので、今後に役に立つと思います。